

レストハウス、リフォーム 計画は白紙撤回を！

リフォーム費用は1億5千万円 から4億円へ

テレビで「レストハウスのリフォームを1億5千万円で行う」と放映されたのは昨年の9月20日です。市議会に対する最初の説明会は、1カ月後の10月19日でした。

そして、2度目の説明会が行われたのが今年の6月です。8カ月間、説明会は行われませんでした。



テレビ番組「リフォームアフター」

2回目の説明会では、テレビ局・設計業者側が示したりリフォーム費用が約3億7千万円、消費税を含めると4億円を超えることが明らかになりました。

山崎市議は市議会と市民をないがしろにして、莫大な税金を使うことは許されない、と市長の政治姿勢を質しました。

【山崎】この間の経過は、市議会と市民をないがしろにしたものです。市長は、どう考えていますか。

【市長】テレビ番組の中で事業費及び外観・デザインが編集され、発表されることは、承知していませんでした。恣意的に議会軽視したとは思っていません。議員には、おわびと誠意を持って経過説明しています。

リフォームするとしても、市民の皆さんのアイデアとか声を聞いてつくったほうが、大阪の業者に設計を任せて、市議会の承認を得て、リフォームするよりも良いものができるのではないかと、できた後も愛着のあるものになるのでは、という声もあります。

賛成の声、反対の声、市民の声を聞く機会をつくるべきだ、と思います。

【市長】市民の声を聞いて、まとまる場合と収拾がつかない場合がある。物事を決断するときには、何かを切り捨てなければいけない。市議会の御指導を仰ぎながらすすめていく。

【山崎】要するに、市民の声を聞く場、機会は作らない、という答弁です。

6月の市議会への第2回説明会には、設計業者も出席しました。

その際、業者から「要請を受けて、1億5千万円の提案をした。それに対して、平戸市から『平戸の名所になるものにしたので、そういう提案をしてほしい』と言われた。それで4億円を超える提案となった」という説明がありました。

若者の負担を減らし、若者を平戸へ

奨学金貸付制度の見直しを求める

ヨーロッパでは学費は無料か低額で、返す必要のない給付制奨学金も充実しています。学生が学費や生活費の心配なく勉学に励むことができますようになっています。

に苦しむ若者がたくさんいます。平戸市にも、貸付型奨学金があります。しかし、残念ながら、あまり利用されていません。

後継者を育てる、という目的があります。しかし、利用しづらいため、2011年の制度スタート以来、利用者が1人もいません。

日本の学費は、たとえば、世界一高いレベルです。経済協力開発機構(OECD)加盟の34カ国、いわば経済的先進国の中で、大学の授業料が有料で、給付制奨学金がない国は、日本だけです。

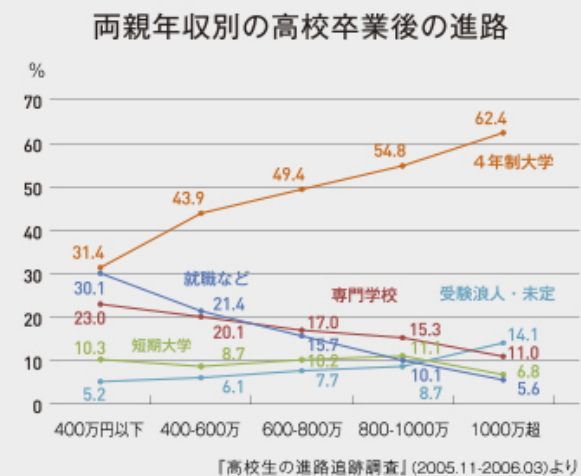
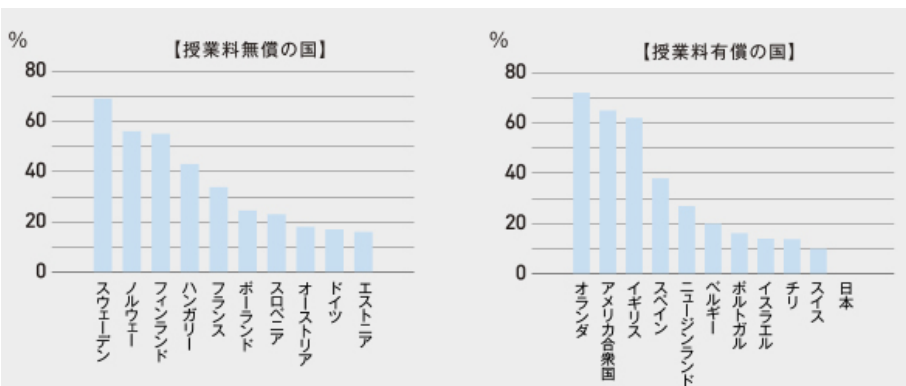
たとえば、産業後継者を対象にした制度は、農業、水産業、商工業などの後継者で、高校生が対象です。高校卒業と同時に市内で農業、水産業、商工業などの定職について、5年間働けば、奨学金を返済する必要はありません。

【山崎市議】専門学校生や大学生も対象とする「5年ではなく、3年とする」などの見直しを行うべきだ、と思いますか。

【市長】検討する。

そのため、進学を諦める若者や、奨学金を借りて、返済

若者の負担を減らし、産業



各地に給付制奨学金制度を実施している自治体が広がっています。

大村市も、そのひとつで、大村市内に保護者が住む大学1年生が対象です。制度は2012年度にスタートしました。